

東京駅日本橋口のサピアタワー (SapiaTower)10F 東北大学東京分室をお借りし、マクロエンジニアリングの過去・現在・未来をテーマに学会会員、一般参加者を交え開催されました。ビルの保安管理が徹底しており、小綺麗な会議室でした。ちなみに“Sapia”は知恵を意味するサピエンス (sapience) に由来するそうです (wikipedia)。会場の手配にご協力いただきました、劉会員、バートルエルデネダライ会員 東北大学関係者の皆様に感謝申し上げます。

開会に当たり、角田理事長より「ようこそ日本マクロエンジニアリング学会へ」では弊学会の課題とともに、自然科学から社会科学まで専門の枠にとらわれない特徴、今後強化を図る会員ベネフィットについてアピールがありました。



会場の SapiaTower
(写真 : wikipedia)

「講演 1 日本マクロエンジニアリング学会立ち上げから国際会議まで」では、弊学会顧問新田義孝より、学会創設から、宇宙・海洋・リニア・長大トンネル・未来都市形態・国際会議など着実に発展したころの苦労話・逸話、“カンエンジニアリング”の紹介がありました。

そして、バブル崩壊と世代交代が訪れることとなります。



講演 1 日本マクロエンジニアリング学会立ち上げから国際会議まで 新田義孝

「講演 2 マクロエンジニアリングの現在」では、弊学会理事劉庭秀より、マクロエンジニアリングの学問領域としての位置づけ、日本マクロエンジニアリング学会の学会としての位置づけ、課題、そして、研究・社会貢献活動のあり方について概観がなされました。

マクロエンジニアリングは研究対象が広範なことによる魅力と一方では難しさ、今後取り組むべきテーマ、会員確保や会員サービスの見直しなど、小規模学会の方向性について提案がございました。



講演 2 マクロエンジニアリングの現在 劉庭秀

「講演3 マクロエンジニアリングの未来」では、弊学会理事新田義修より、マクロエンジニアリングの目的を再確認するとともに、エンジニアリングの手法として“システムダイナミクス”と応用できる対象の広がりをご紹介いただきました。



講演3 マクロエンジニアリングの未来 劉庭秀

「総合討論 マクロエンジニアリングの展開、弊学会の役割、会員・会員希望者のニーズについて」では会場の皆様を交え、マクロエンジニアリングと日本マクロエンジニアリング学会の今後について提議、議論がございました。

マクロエンジニアリングは色々な分野の専門家の集まりですが、集団として何ができるかというより、改めて個人が多分野をこなすことの重要性が指摘されました。



総合討論
マクロエンジニアリングの展開、弊学会の役割、会員・会員希望者のニーズについて

総合討論終了後、本シンポジウムや会員サービスなどに関するアンケートを回収しました。沢山の方のご協力、ありがとうございました。結果については改めてご報告させていただきますが、学会運営に反映させていただきたいと考えております。

シンポジウム終了後、同じビル3階のイタリアンレストランパピラノで、古参、若手、講演者を交え、反省会が催されました。シンポジウムの企画・運営では至らない点多々ございましたが、マクロエンジニアリングの必要性・可能性を再確認できました。



反省会（於：Sapience Tower 3F Papa Milano）